

サステナビリティ・SDGsを活かした 国づくり・企業経営

—クロージング—

株式会社日本総合研究所 理事長 翁 百合



翁理事長

シンポジウムのクロージングに当たって、一言ご挨拶させていただきます。

今日は、皆様、ご視聴いただきまして、まことにありがとうございます。また、お忙しいところ、パネリストの皆様からは本当に興味深くて貴重なお話をお聞かせいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

今年は、新型コロナ感染によりサステナビリティへの意識が、個人でも、企業でも、地方でも、国でも、一段と高まった年だったと思います。まさに人類が岐路に立っている、こんな時期に今回のシンポジウムを開催させていただいたと言えるかと思いますが、本日のパネリストの皆様議論を伺いまして、日本の国づくりの面でも、企業、それから日本型の資本主義の在り方、こういったところにやはりその答え、SDGsへの達成、貢献がいかに意味のあることであるかということが改めて確認できたかと思っています。

また、目標年次、2030年に向けて、あらゆるレベルで着実に行動していく必要を感じました。政治のレベル、経営のレベル、それから、教育でもSTEAM教育の話もございましたし、また、消費者一人ひとりの取り組み、そして心や幸せとは何かというのを一人ひとりが考える、こういった裾野の広い取り組みが必要だということも非常に明確になったように思います。

先ほどもご紹介がありましたけれども、10月26日に菅総理から2050年のカーボンニュートラルについての宣言がありまして、いよいよ日本社会も大きな変革の入口に立っていると思います。グローバルにも、バイデン新大統領になれば、一層加速度的にこれが進むと考えられます。

SDGsの17の目標というのはすべて重要で、相互に関連し、総合的に進めていく必要があると思うのですが、とくにこの地球環境の問題、これについては日本としても、成長と両輪でということだと思いますけれども、進めていく必要があると思いますし、なかなか困難な目標ではありますけれども、イノベーションや社会変革に知恵を絞っていく必要があるのではないかと思います。

また、今日は万博のお話も聞かせていただいて、まさにbeyond SDGsというお話も非常に興味深かったと思います。一人ひとりが楽しく深く考えていくということの重要性についても気付かされたと思います。

弊社は、SDGsの達成に向けたリサーチとかコンサルティングについては、かねてから幅広く取り組んでまいりましたが、今後も一層この分野に力を尽くして、とくに次世代の若者、国、世界の在り方に

ついて考え、様々な形で社会に貢献していきたいと思っております。

今回はコロナ感染のためにオンライン開催となりましたけれども、これにより、通常の方よりもかなり多くの方にご視聴いただけたと思っております。今後もオンライン、オフライン、うまく組み合わせで情報発信してまいりたいと思っております。

本日のシンポジウムが、皆様にとってSDGsへの理解を深めるヒントになれば、主催者としてこれに勝る喜びはございません。最後になりましたが、本日は弊社のシンポジウムにご参加いただきまして、まことにありがとうございました。

(了)